

金沢市液状化危険度予測図（案）について

1. 目的

東日本大震災では、大地震による揺れや津波により大きな被害が発生したが、地盤の液状化という、地震によって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象においても大きな被害が広範囲で発生した。千葉県のパ安市では市の85%で液状化が発生し、住宅9000棟が被害を受けた。

本市では、本市に最も大きな地震被害を起こすと予想される「森本・富樫断層帯」が活動した場合の液状化危険度分布図を従来から金沢市地域防災計画に掲載してきたが、東日本大震災を教訓として、液状化の可能性が高いと想定される地域をより判りやすくお知らせすることで、市民や事業者の皆さんに液状化についてご理解いただき、土地利用をする際に地盤調査を入念に行っていたり、建物及びその周辺の液状化対策に取り組んでいただくこと、さらに、液状化の影響を踏まえた地域での防災計画に役立てていただくことなどにより、液状化による被害の軽減につなげることを目的に「金沢市液状化危険度予測図」を作成する。

2. 主な内容

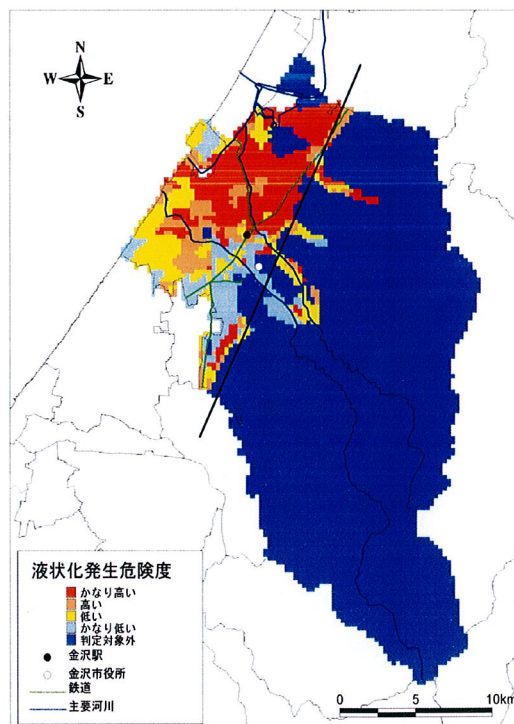
- ・作成にあたっては、「森本・富樫断層帯」の活動によりマグニチュード7.2の地震が発生したことに伴うものとして想定している。
- ・新たな土質データを500箇所程度追加し、精度を高め、A1サイズの大きなマップを作成する。
- ・液状化発生危険度は、「かなり高い」「高い」「低い」「かなり低い」の4段階評価とする。
- ・予測図には主要な公共施設、道路、鉄道、河川などや液状化現象の説明を記載する。

3. 配布

今年度内に予測図を作成し、市ホームページに掲載するほか、来年度の早い時期に印刷し、公共施設や公民館、学校等に掲示予定。

(参考)

「液状化現象」：地震によって、水分を多く含んだ砂の層が液体のように流動化する現象で、地下水位が高く、締め固まっていない緩い砂がある場所で、激しい揺れが発生した場合に起こる。このため、地盤を改良して土地利用している場所や建築物等に液状化対策が実施済みのところについてはこの限りではない。



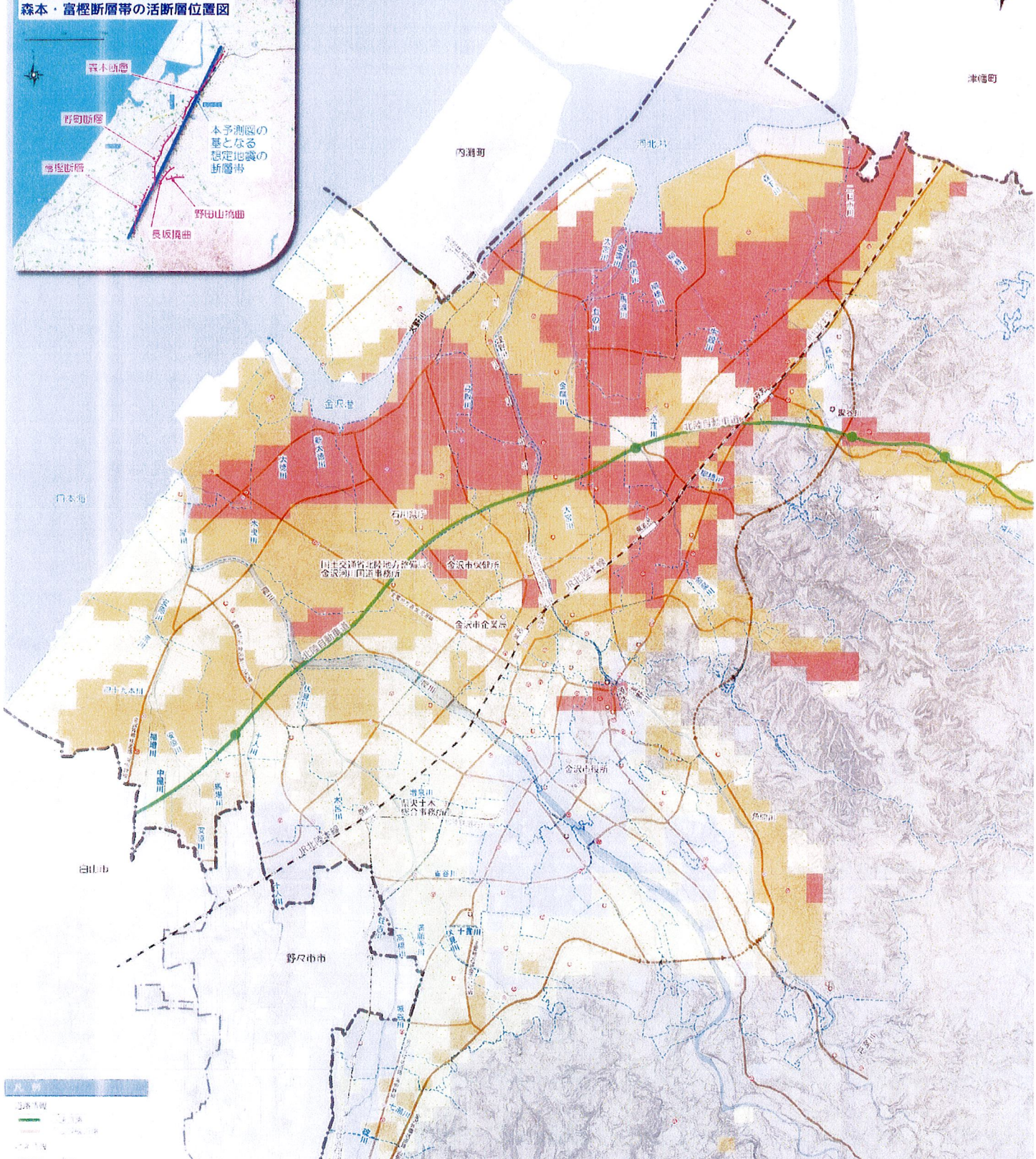
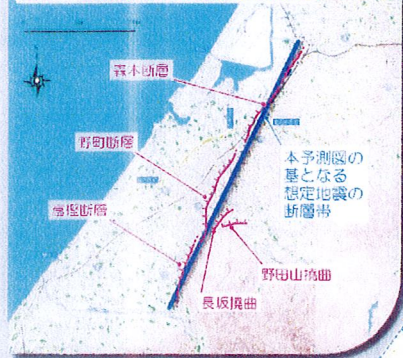
(従来の液状化危険度分布図)

金沢市 液状化危険度予測図（素案）

◆危険度予測結果は、あくまでも
暫定版である（修正予定あり）

※本予測図は森本・富樫断層帯による地震の発生に伴う液状化危険度を示したものです。

森本・富樫断層帯の活断層位置図



液状化現象とは？

地震によって、水分を多く含んだ砂の層が、液状のように流動化する現象のことです。地下水位が高く、締め固まっていない緩い砂の層がある場所では、激しい揺れが発生した場合に起こります。

地震発生前、砂の層は水を含んで固く締り固まっています。地震発生時、強い揺れによって砂の層が液状化し、水が押し出され、砂は分離して沈みます。地震発生後、砂の層は水を含んで固く締り固まっています。地震発生時、強い揺れによって砂の層が液状化し、水が押し出され、砂は分離して沈みます。地震発生後、砂の層は水を含んで固く締り固まっています。

